



ニュース

URL ; www.tops-h.net/

**\*加盟団体\***

- ・ NTT西日本広島 ソフトテニスクラブ
- ・ サンフレッチェ広島
- ・ JTサンダース
- ・ 中国電力陸上競技部
- ・ 湧永製菓
- ・ コカ・コーラウエスト
- ・ 広島メイプルレッズ レッドスパークスホッケー部
- ・ 広島ガスバドミントン部
- ・ 広島東洋カーブ

**東北に思いよ届け！  
ひろしま国際平和マラソン開催**



毎年開催されている「ひろしま国際平和マラソン」が11月3日(祝)に開催された。参加者は約12000人にも上り、トップス広島からもたくさんの選手が参加し、気持ちの良い汗を流した。大会はキッズコース、ビギナーコース、チャレンジコースと三部門に分かれており自分にあったコースを選ぶことができる。今年の平和マラソンではランナーの方々が胸に東日本大震災の復興への気持ちを書いたワッペンをつけて走った。応援メッセージ入りのワッペンはホームページ上にも掲載されており誰でも読むことができる。競技終了後はサブグラウンドで子供限定のホッケーとハンドボールの体験コーナーを行った。コカ・コーラウエスト、ワクナゲレオリックの選手とのふれあいができるといことで、多くの子供達が参加。参加した子供達は、マラソン後ということを含め感じさせないほど、選手と共にそれぞれのスポーツを満喫していた。終了後も選手と子供達が楽しそうに話す姿が見られた。是非ともこのような形イベントを通じて、ホッケーやハンドボールにその他スポーツに興味をもつ子供達が増えて欲しい。

**大庭・佐々木ペア金メダル！  
国別対抗戦男女とも銀メダル獲得！  
世界ソフトテニス選手権大会**



左から 大庭選手、長江選手、佐々木選手

10月27日(木)から11月1日(火)まで、韓国で開催された「第14回世界ソフトテニス選手権大会」。ソフトテニス世界一を決める本大会には、NTT西日本個別認定選手の長江光一、大庭彩加、佐々木舞が日本代表として出場し、世界のトッププレーヤーとしてのぎを削って熱戦を繰り広げた結果、女子ダブルスで大庭・佐々木ペアが念願の金メダルを、国別対抗戦で男女とも銀メダルを獲得した。女子の中本裕二監督は、「佐々木・大庭組の戦いは、女子界でNTT西日本広島でしか行っていない攻撃型並行陣という素晴らしい戦略であり、それを駆使して世界一を獲得したことは色々な意味で大きい、また女子界を大きく変えるべく先駆者になったことは誰も否定できないでしょう。そして、現地で試合を見ていた人たちに、感動と夢を与えることもできたのではないのでしょうか。」とコメントしている。国別対抗戦では韓国に完敗したが、個人ダブルスでは男女ともに金メダルを獲得した日本代表。そのなかで長江・大庭・佐々木は、その原動力として大活躍し、NTT西日本の力を見せることができました。この結果に満足せず、上をめざし、世界にさらなる成長を見せつけたい。



**王座奪還へ  
-日本リーグ開幕-**

新たな戦いの幕開けだ。10月29日から第36回日本リーグが開幕した。広島メイプルレッズは初戦を三重バイオレットアイリスと戦い31-18で見事勝利。リーグ開幕を白星で飾る。リーグは13日で前半戦が終了し、メイプルレッズはリーグ成績を3勝2敗と勝ち越し、リーグを3位で折り返す。個人成績では、高山智恵選手のシュート率とGK堂前妙子選手の7mスロー阻止率がそれぞれ1位と頼もしい限りだ。この勢いでリーグ優勝に向けて頑張ってもらいたい。



倒れこみながらゴールを決める高山選手

**大崎電気撃破！  
-日本リーグ開幕-**

11月12日に日本ハンドボールリーグのワクナゲレオリック開幕戦は、琉球コラソンと対戦し、GK松村が3連続で7mスロー阻止などの活躍で見事勝利。第2戦は大同特殊鋼対戦し、立ち上がりは一進一退の交互に得点する展開が勢いに乗っている大同に連続得点を上げられ惜しくも敗戦。続く大崎電気戦は首位に食い込むための大事な1戦、試合はシーソー



ゲームで進んでいくが、終盤ゴールキーパーの好セーブもあり接戦をものにした。この勢いで優勝目指して頑張ってもらいたい。



10月29日	○	広島メイプルレッズ	31-18	三重バイオレットアイリス
11月3日	●	広島メイプルレッズ	19-32	オムロン
11月5日	○	広島メイプルレッズ	28-24	ソニーセミコンダクタ
11月12日	○	広島メイプルレッズ	33-16	HC名古屋
11月13日	●	広島メイプルレッズ	26-29	北國銀行



# 全日本実業団駅伝 出場権獲得 14年連続V!



「区間賞・MVP受賞の森本卓志選手」

11月13日(日)に広島県世羅町で「第50回 中国実業団対抗駅伝競走大会」が行われ、中国電力は4時間07分00秒で14年連続15度目の優勝を飾った。また1区の森本卓志選手が区間賞と大会 MVP を受賞した。これにより、来年度に行われる「第56回全日本実業団駅伝」への参加も決定した。来年度1年を占うであろうレースに期待が懸かる。

中国電力  
陸上競技部

## 広島で熱戦繰り広げられる!



バドミントンの日本リーグは10/29(土)に廿日市スポーツセンターで広島大会が開催された。広島ガスは七十七銀行と対戦した。地元広島での公式戦開催は3年ぶり。会場である廿日市スポーツセンターには700人が駆けつけた。選手たちは地元での勝利にむけて必死のプレー。観客も声援で応えた。1点を決めるたびに割れるような歓声。白熱した試合は3対0で七十七銀行の勝利。広島ガスとしてはいい展開もあったが地元勝利とはならなかった。

広島ガス  
バドミントン部

## ホーム最終戦 ありがとうミシヤ



サンフレッチェ広島は26日、ホーム最終戦を行った。ビッグアーチには約1万6800人のサポーターが詰めかけ、スタンドがチームカラーの紫色に染まる中、サンフレッチェ広島は今季最多得点に並ぶ4ゴールをおさめ、4-2で大宮アルディージャを下し、5試合ぶりの勝利を飾った。約5年半チームを率いてきたミハイロ・ペトロヴィッチ監督は既に退任が決まっており、サポーターからはねぎらいの言葉が聞かれた。2007年にJ2に降格したものの、1シーズンでJ1に復帰。天皇杯準優勝やナビスコ杯準優勝などの成績を残した。ペトロヴィッチ監督は「大量4得点、広島らしい攻撃的なサッカーが出来た」と笑みを浮かべた。試合後のセレモニーでは「約6年、人生で最も素晴らしい時間だった。またみなさんと一緒に戦う日が来るかもしれないから、サヨナラは言いません」と話し、涙を浮かべた。



**\* ロゴマークの意味 \*** 広島県の木、広島県の花として県民になじみの深いモミジをモチーフにしました。「新緑のモミジ」はジュニアスポーツの育成を、「紅葉のモミジ」は選手が成長していく姿を表現しています。ジュニア選手がトップを目標とすることを期待し、広島県のスポーツのジャンプアップを図ることを意味しています。

## CCWRS 惜敗 シーズン3冠ならず



第72回全日本女子ホッケー選手権大会が福井県丹生郡越前町立ホッケー場で行われ、CCW レッドスパークスはソニーとの決勝戦に1-2で敗れ、惜しくも今シーズンの三冠達成を逃した。試合は、立ち上がりから両チームが激しい攻防を繰り広げるが、前半15分CCWのFB朴(パク)がソニーのFW深野を倒し、ペナルティーコーナー(PC)を与えてしまう。ソニーはPCでFB村上からのパスをFB及川がスティックを合わせてタッチシュートを決め先制。先制を許したCCWだったが、徐々に本来の調子を取り戻していき、前半22分にソニーのインターフェアからPCを獲得。その後再び得た23分のPCでFB小野が決めて同点に追いつく。後半に入っても両チーム一進一退の攻防が続いたが、しかし30分にPCの流れからMF山本のサークルエリアへのパスをMF中川に決められ1-2とされた。同点に追いつきたいCCWだが、ソニーのFB林を中心とした堅い守備の前に最後までネットを揺らすことはできず万事休す。試合終了の笛と共にソニーの6年連続14回目の優勝が決まり、CCWRSは準優勝で試合を終えた。来年度こそは三冠を達成して欲しい。



## ついに開幕! 日本まさかの2連敗



八子大輔選手

11月20日にFIVBワールドカップ2011の初戦であるイラン戦が行われ、セットカウント1-3で敗れた。また、21日に行われたアルゼンチン戦ではセットカウント2-3で敗れ2連敗となった。全日本チームエントリーメンバーに、JTサンダースからは八子大輔選手された。試合では決めきらなかったりする場面が多々あり、試合後の八子選手のコメントでは「初のW杯で緊張していたが、チームを勢いづかせたかった。セットを重ねるごとに崩れてしま

い悔しい。個人としては、自分はまだまだと実感した。スパイクも全然決まらず、勝負どころでも打ち切ることができずに悔しい思いが残った。まだ自分はできると思うので、1日1日試合を通じて成長したい。途中から出ることが多くなるので、チームの雰囲気を変えられるように、起爆剤になりたい」と語った。今大会は上位3チームに与えられる2012年ロンドンオリンピックの出場権をかけて戦う。日本はエントリーチームで世界ランキング最下位。このランク通りにならないためにも奮起したい。



## 少数精鋭のドラフト 大学ビッグ3野村獲得!



10月27日に行われたプロ野球ドラフト会議で広島東洋カーブは野村祐輔投手(明治大)、菊地涼介内野手(中央学院大)、戸田隆矢投手(樟南高)、土生翔平外野手(早稲田大)を指名し、育成枠で4選手を指名した。今年のドラフトは即戦力重視で少数精鋭のドラフトとカーブは位置づけていた。1巡指名した野村は最速149キロのストレートと多彩な変化球を投げ分ける安定感のある投手。「全ての球種でカウントがとれ、勝負球に使える。」と苑田ス

カウトは語っていた。今年のドラフトビッグ3の1人としても注目を集め、東京六大学リーグ史上7人目の大学通算30勝300奪三振を達成している。野村、土生は2007年夏季全国高校野球選手権大会で準優勝した地元広陵高校出身ということもあり期待が高い。ドラフト会議後、野村謙二郎監督は直々に野村のもとを訪れ指名あいさつを行った。昨年1巡指名の福井同様先発ローテーションの一角を担う逸材の投手として首脳陣からの期待も大きい。